令和４年度希少野生動植物種専門家科学委員会（書面開催）

資料１－２

国際希少野生動植物種に追加又は削除する種の概要

※ワシントン条約附属書改正提案をもとに作成。なお、命名法の改定による追加又は削除に係るものを除く。

１．国際希少野生動植物種に追加する種の概要

（１）*Pycnonotus zeylanicus*（キガシラヒヨドリ）

１） 分類及び種名

すずめ目　ひよどり科

キガシラヒヨドリ

Pycnonotus zeylanicus

２） 分布状況

シンガポール、マレーシアの一部、インドネシアのカリマンタンに分布が限定されている。（タイ、ミャンマー、インドネシアのジャワ島等で絶滅。）

本種の全体の個体数は、過去３世代（15年）で80％以上が失われたと推定されている。

３） 絶滅のおそれを生じさせている要因

主に農業用プランテーションのための伐採や開発、住宅地や工業地帯の拡大により、生息域は全域で減少。また、アジアの一部で観賞用の鳴禽類として捕獲され、取引されている。

（２）*Tiliqua adelaidensis*（アデレードアオジタトカゲ）

１） 分類及び種名

とかげ亜目　とかげ科

アデレードアオジタトカゲ

Tiliqua adelaidensis

２） 分布状況

オーストラリアの南オーストラリア州の固有種で、東西約100 km、南北約140 kmの範囲にある約30の分断された生息地にのみ生息。

野生の個体数は10,000個体以下（おそらく5,000個体前後）と推定。

３） 絶滅のおそれを生じさせている要因

土地利用の変化、個体群の断片化、ペット目的の採集。

４） 日本における流通

令和３（2021）年、日本において本種の個体の販売を目的とする広告があることを示唆する情報があった。（なお、少なくとも平成14（2002）年以降、原

産国であるオーストラリアから本種の生体の合法的な輸出は許可されていないことに留意。）

（３）*Batagur kachuga*（ニシキセタカガメ）

１） 分類及び種名

かめ目　いしがめ科

ニシキセタカガメ

Batagur kachuga

２） 分布状況

インド北部とバングラデシュのガンガー低地にのみ分布する固有種。バングラデシュでは絶滅した可能性が高い。

過去50年間で少なくとも80％減少し、現在も減少。

３） 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息場所である河川における人間活動による撹乱、漁業による混獲の影響。また、ペット取引や食用を目的として違法に採取されている。

４） 日本における流通

違法取引について、主な輸入国の1つとして日本に言及。また、CITES取引データベースのデータとして、飼育下繁殖個体の輸入国として日本に言及（平成17（2005）年６個体、平成18（2006）年８個体)。

（４）*Cuora galbinifrons*（モエギハコガメ）

１） 分類及び種名

かめ目　いしがめ科

モエギハコガメ

Cuora galbinifrons

２） 分布状況

中国南部、ラオス、ベトナムの森林地帯に生息。過剰採取の結果、個体数は過去60年間（３世代）で90％以上減少したと推定される。

３） 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威はペット目的とアジア圏での食料消費目的の採集。

４） 日本における流通

CITES取引データベースのデータによれば、平成11（1999）年～令和元（2019）年の間に、日本からは少数の輸出実績がある。また、日本は平成12（2000）年～令和元（2019）年にかけて主要輸入国の一つである。

（5）*Kinosternon cora*（キノステルノン・コラ）

1） 分類及び種名

かめ目　どろがめ科

キノステルノン・コラ

Kinosternon cora

2） 分布状況

ドロガメ属（どろがめ科）は、アメリカ大陸の固有属であり、本種は米国に分布。

3） 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は、生息環境の消失と地元での消費又はペット目的の違法な国際取引。

4） 日本における流通

本種のみに関する輸出入の情報はない。本種を含むドロガメ属（22種）については、メキシコ及び米国から日本に向けて輸出の記録がある。

5） 利用状況

ドロガメ属の生体はペット、食用、薬用として利用される。派生物（肉、内臓、骨、甲羅）も流通しており、とりわけ甲羅は手工芸品の材料として装飾品や楽器等に利用される。

6） 類似種

どろがめ科に属するドロガメ属は、皮膚や背甲の色彩パターン等の外観的特徴がニオイガメ属等の同科他属と非常によく似ている。ドロガメ属と比較して、ニオイガメ属の甲羅はよりドーム状で、中央に特有のキール（隆起）がある傾向があるほか、腹甲や頭部の特徴、甲縁の突起に違いがある。*K. vogti*と*K. cora*は混同されやすい（補足：形態的特徴から種の同定は可能※）。

（6）*Kinosternon vogti*（キノステルノン・ヴォグティ）

1） 分類及び種名

かめ目　どろがめ科

キノステルノン・ヴォグティ

Kinosternon vogti

2） 分布状況

ドロガメ属（どろがめ科）は、アメリカ大陸の固有属であり、本種はメキシコに分布。

3） 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は、生息環境の消失と地元での消費又はペット目的の違法な国際取引。

4） 日本における流通

本種のみに関する輸出入の情報はない。本種を含むドロガメ属（22種）については、メキシコ及び米国から日本に向けて輸出の記録がある。

５） 利用状況

ドロガメ属の生体はペット、食用、薬用として利用される。派生物（肉、内臓、骨、甲羅）も流通しており、とりわけ甲羅は手工芸品の材料として装飾品や楽器等に利用される。

６） 類似種

どろがめ科に属するドロガメ属は、皮膚や背甲の色彩パターン等の外観的特徴がニオイガメ属等の同科他属と非常によく似ている。ドロガメ属と比較して、ニオイガメ属の甲羅はよりドーム状で、中央に特有のキール（隆起）がある傾向があるほか、腹甲や頭部の特徴、甲縁の突起に違いがある。*K. vogti*と*K. cora*は混同されやすい（補足：形態的特徴から種の同定は可能※）。

※ 引用文献

JESÚS A. LOC-BARRAGÁN, JACOBO REYES-VELASCO, GUILLERMO A. WOOLRICH-PIÑA, CHRIS-TOPH I. GRÜNWALD, MYRIAM VENEGAS DE ANAYA, JUDITH A. RANGEL-MENDOZA & MARCO A. LÓPEZ-LUNA. 2020. A New Species of Mud Turtle of Genus *Kinosternon* (Testudines: Kinosternidae) from the Pacific Coastal Plain of Northwestern Mexico. Zootaxa. 4885 (4) : 509-529.

（７）*Nilssonia leithii*（リーススッポン）

１） 分類及び種名

とかげ亜目　すっぽん科

リーススッポン

Nilssonia leithii

２） 分布状況

インド半島の固有種。

過去30年間の集中的な過剰採取と生息地の劣化から、分布域の平均90％以上が減少したと考えられている。

絶滅のおそれを生じさせている要因

砂の採掘、汚染、河川の水文学的変化による生息範囲の縮小。インド半島全域で食肉用、薬用として違法に利用されている。

３） 類似種

ガンジススッポンやクジャクスッポンと類似しているが、生体での識別は可能。なお、薬用として需要が高いカリピー（乾燥させ加工した甲状軟骨）から同定することは困難。

２．国際希少野生動植物種から削除する種の概要

（１）*Leporillus conditor*（メキシコプレーリードッグ）

１） 分類及び種名

齧歯目　リス科

メキシコプレーリードッグ

Leporillus conditor

２） 分布状況

メキシコの固有種。プレーリードッグ属の中では最南端に分布する種。

３） 附属書Ⅰから削除する理由

コロニー数が平成11（1999）年に激減して以降、全体として安定化。本種の標本やサンプルが販売された公式記録はなく、野生個体数を脅かすような国内外での市場も見受けられない。

（２）*Epicrates inornatus*（バヴァチボア）

１） 分類及び種名

へび亜目　ボア科

バヴァチボア

Epicrates inornatus

２） 分布状況

均一ではないもののプエルトリコ本島に広く分布。最近の個体数モデルでは、総個体数は３万個体超と推定されている。

３） 附属書Ⅰから削除する理由

森林面積の増加により、昭和45（1970）年の附属書Ⅰの掲載当時に考えられていたよりも、多くの個体が生息。また、現在の利用は最小限であり、生息する地域へのアクセスの難しさ、連邦政府及びプエルトリコの各レベルでの法的保護を考えると、将来の利用が大幅に増加することはないと予測される。